

令和7年度小高小学校・小高中学校保護者懇談会意見交換の内容

(要約版)

懇談会開催日 令和7年9月27日(土)10時00分～

場 所 小高生涯学習センター ホール

懇談会参加人数 14人(会場11人、オンライン3人)

○:保護者、市民 ⇒:市教育委員会、山田徹校長

1 義務教育学校になった際の課題の対応について

○義務教育学校などによって変わっていくときに、小・中の指導や文化の違いによる戸惑いがあった際の課題があれば伺いたい。また、そうした問題が起きたときに、先生や教育現場、保護者として何ができるのか伺いたい。

⇒管理職も含めて学校経営の問題にもなってくると思う。やはり4月当初に新しく来た先生方への引き継ぎなどを丁寧にやる必要があり、管理職がきちんと説明を行い、それを何度も説明していくことが大切だと考える。また、地域の方がそれをしっかり見守り、何かあったときには意見などをいただくのがよいのではないかと考える。

2 今後の協議の進め方について

○今後、協議会などを作って話が進んでいくと思うが、学校だけでなんとかしようとするのではなく、地域と連携していくということも考えてもらいたい。

⇒今の協議会には保護者の方、そして地区の代表の方ということで、皆さんに入ってもらって、これからの学校をどうしていきたいかというところを協議・検討を行いたいと思っている。小高ならではのようなどころも生かしていきたいに思っているので、そういった視点を大切にしていきながら進めていきたい。

○地域から教育委員会にお願いしてやってもらうというのではなく、地域の声を教育委員会が汲み取って進めていくほうが地域の人にとっても満足度が高い取り組みになると思うので、一緒にやっていくという形で進めていただけるとよいと思う。

⇒小高区の方、そして保護者の方、そして教育委員会が一緒になり、小高の子どもたちをどのように育てていきたいというところをしっかりと共有し進めていくことが一番大切であると思っており、そのような形で進めていきたい。

3 義務教育学校を目指すことになった考えについて

○今日のお話を伺い、子どもたちとしたら今とあまり変わらないのかなと思う。
⇒確かに今も連携しているので、変わらない部分も出てくるのかもしれないが、同じ施設の中で、9年間通した学びを充実をさせていくということで、より発展させられる部分があると思っている。今後、義務教育学校を目指す正式に決まった際に、具体的なところを検討していく形になるので、こういう子どもを育てたいというご意見をいただき考えていきたい。

○今回の義務教育学校を設置していくことに関しての目的が説明されていなく、何のためにやるのか、どういういきさつでやることになったのか。
⇒資料1に記載があるが、市教育委員会としては小高小学校・小高中学校の9年間を通じた学びをさらに充実させていきたいという思いがある。学校の魅力や特色について現在もいろいろ取り組んでいただいているが、それらをさらに高めていき、未来を生き抜く子どもたちを育てていきたいと思っている。そのために小高小学校・小高中学校の施設の一体化、そして義務教育学校の設置ということで、これからの学校の姿というものを目指していきたいというのがそもそもその目的である。

○なぜ義務教育学校という話は意見書が出たという地域協議会からの声が今回の提案の中心にあるのか、教育委員会としての思いが先にあるのかで全然違うと思っており、子どもたちにとってどうなのかというところがないのであれば、今のところやる意味はあまりないと思う。
⇒教育委員会として、こういった学校を作っていきたいという強い思いがあり提案をさせていただいている。その中には地域協議会からのご意見もあるが、根底にあるのは教育委員会としての思いである。

○個人的に認識としては、少子化で教職員の方々、生徒数ともにこれから日本は減ることから、先生の確保も難しくなる。今も全国的に不足していて、これからもっと不足するので、その対応で、教育の質を落とさないために義務教育学校化が必要であり、特に南相馬市は全体的に原発事故の件もあり人数が少ないので、いち早くスタートしたほうが良いことからやるのかなという認識である。
⇒義務教育学校ができてきた背景としては、確かに子どもたちの数が減ってきているというような少子化の部分があるかと思う。ただ、小高については現在小中一貫教育ということで取り組んでおり、それをさらに9年間を見通して系

統立てて、より充実をさせたいという思いが入り口になっており、子どもが少ないから一緒にするという事ではない。

4 子育て世代の意見聴取について

○どれだけ子育てしている方たちの意見を聞いたり踏まえた上でやることになっているのか。聞かずに地域協議会から意見書が出たのでやるということだけなのか、そもそも方針として落とし込むプロセスで、どれだけお子さんを育てている方たちのご意見に触れたのか。

⇒今回、市の方向性として提案をしたので、今後実施する意識調査の中でしっかりと意見を伺っていきたいと思っている。その中で保護者の方も義務教育学校を目指していきたいと同じ方向性に向いていただいた際には、具体的に走り出しをたいと考えている。もし、義務教育学校についてはどうなんだろうかということであれば、理解をいただくように丁寧に説明をしていきたいと考えている。

5 義務教育学校の特色について

○義務教育学校と小中一貫校の比較のところ、最も大きな違いは、組織、運営面にあるということだが、本来であれば、最も大きな違いは、質の高い教育環境と、それを確保し、教育効果の向上というところがまず必要ではないかと思う。

⇒義務教育学校と小中一貫校の一般的に言われているものとして最も大きな違いは組織・運営にあるということで説明をしている。確かに教育の質の高さや、特色についてをさらにお知らせすることで、義務教育学校の理解が進む場面も出てくるかと思うので、参考にさせていただく。

○義務教育学校にするのであれば、小高ならではの義務教育学校にする必要があると思う。そこで最先端の先進的ICT教育を前端的に打ち出して欲しい。そういうことを学ばせることによって、そこからまたこの町に戻ってきて、この義務教育学校に通わせたいという若い人たちが戻ってくるという環境にすることが可能ではないかなと思うが、教育委員会としてどのように考えているのか。

⇒小高ならではの義務教育学校というものを指すというところはその通りだと思っており、小高の特色を生かした、小高に来てみたいというような義務教育学校を目指したいと思っている。先進的なICT教育をするということも貴重なご意見と思っており、ICT教育を行い、どのようなことを子どもたちがやっていきたいのか、それを使って自分の目指す目標を叶えていきたいのかという

ようなところもあるかと思う。

今後、具体的にどういった学校を目指すのか、どんな子どもたちを育てていきたいのかというようところで検討をしていければと思う。

6 部活動、施設の跡地利用について

○現在の小高中学校の施設をどうするのか、部活動のこともそうだが、校庭や体育館をどのように使っていくのか。

⇒部活動については、今子どもたちが少なくなっていることや、やりたいことが多様化しているという部分がある。学校単位で部活動をやっている部分と、地域で何校か合同でやっている部分、または地域のクラブとして活動をしている部分もあるので、部活動に支障のないように、今の小高中学校のグラウンドや体育館を使うということも検討し、地域展開も踏まえながら、一緒に協議を進めていきたいと思っている。

施設の利活用については、今後どういったものが必要なのか、どういった使い方が必要なのかというところを本日いただいたご意見等も踏まえ、今後、協議を進めたい。

7 現在の課題の対応について

○今回こういう形で9年制になることによって、これまでの課題などが解消するのか、それとも9年制にはなるものの、結局、部活動であったり教育環境を求めて区外に通学をされていた方たちの不便は残るのか。これまで区域外就学がどのような要因で起きていて、それが今回どういう問題は解消するが、こういう問題は残ると把握していれば、我々の意見を聞く前に説明していただきたい。

⇒区域外就学については条件があり、その条件に合わない場合には認められないというのが原則となっている。各家庭の事情があり、小高に通わせたくないからという部分ではないと思っている。ただ、心配な部分もあり、別な区域外就学の理由を選択されて市内の違う学校に行かれている方もいるかとも思うので、そのあたりについては個別の状況のため把握できない。

8 国際バカロレア教育との関係について

○国際バカロレア教育については、原町第三小学校、原町第一中学校を軸に始めて行くと思うが、そもそも9年制に移行するという話と、市内でバカロレアに取り組んでいくという話がどのようにリンクして、どんな課題が起きそうなのか教えてほしい。

⇒バカロレアについては、まず原町第三小学校でカリキュラムを実施する予定であ

る。こちらの内容については、研究開発校というような位置づけになっており、原町第三小学校で取り組んだカリキュラム等について、市内全体の学校に広げるように進めていくと聞いている。その部分については小高については関係ないということではなく、今後、市内全体に探究学習等を波及させていくという考えを持っており、引き続き一緒に取り組んでいく形になる。

9 教育の継続性について

○9年制になることによって、幼児教育や小学校の中で一生懸命取り組んできたものが、きちんと継続いただけるのかどうかあらかじめ説明がないことにすごく不安を感じているが、どのように対応・検討されているのか。

⇒現在、おだか認定こども園からフォニックス学習やえいご発音遊びということまで英語教育を行っている。そちらについては、そのまま小学校・中学校と系統立てて取り組んでいただいていると考えている。今後、義務教育学校開校ということとなれば、今後の協議の中で、どんな力を、どの発達段階に合わせてつけさせていくのかということも検討をしていきたい。

○小高区における教育の特色で、小学校ではフォニックス学習、中学校では東京グローバルゲートウェイ（TGG）の英語研修とあったが、今年度は実施していないので、小学校でフォニックス学習をせっかく学んで来たとしても、中学校ではそういった英語教育に関して、小高区における教育の特色になっていないのではないかと思う。今後、義務教育学校になる際に、英語やICTの学習など、小高の義務教育学校の中でしか学べないような義務教育学校を作り上げていってほしい。

⇒今年度、小高中学校についてはTGGに行けなかったということで、これまでは修学旅行の行程の中に組み入れたり、別に実施していた経過がある。ただ、今年度については日程等の部分を考慮した結果、TGGに行かないということになったと聞いている。認定こども園から中学校までという繋がりの中で、英語等も行っている現状もあるので、今ほどのご意見の通り、小高ならではの教育の部分についても大切にしながら、どういった9年間の学びを充実させていくのかということも検討していきたい。

10 義務教育学校に関する情報提供について

○平成28年度から義務教育学校を取り組まれてきてる学校があり、9年通ってどうだったのかということもぜひ情報提供いただきたい。

⇒これまで取り組んできた内容について、実際の卒業生の声などということにな

ろうかと思うが、なかなかそういった声を拾い上げることができていないような状況である。先進自治体等にもいろいろとお伺いする場面があるので、その中でぜひ拾えるようであれば拾わせていただき、何かの折に情報共有をさせていただければと思う。

1 1 開催通知、会議の進め方、情報開示について

○今日のお知らせが、子どもたちの教育環境など大切なことになのに、2週間前に来たこともあり、なかなかリアルタイムでの参加が難しかったりというのがある。また、多くの時間を資料の読み上げに使われてしまい、もっと質疑応答の時間があってもいいと思う。また、今日のことを受けて、さらに情報開示はして欲しいと思う。

⇒お知らせの部分が遅くなったことについては大変申し訳なく思っている。次回以降、このようなお知らせについては、余裕をもってお知らせするよう取り組んでいきたい。また内容についても、今後見直しを図ってまいりたいと思う。協議の部分等については、今後も皆様に何かしら経過を説明できるような情報発信に努めていきたいと思っており、理解いただけるような取り組みを進めていきたいと考えている。

1 2 ギャップについて

○小学校から中学校のギャップを何とかしないといけないというのはよくわかるが、小高区で子育てをする親としての一番の心配は小学校と中学校の間ではなく、中学校から高校や、そこから大学に行く時にもっと大きいギャップを経験しなければいけないことであり、きちんと外に出ていけるように育てていただけるかがすごく心配なので、そういう観点からの検討や課題を整理いただけたらと思う。

⇒中学校から高校、また大学に行く際のギャップの方が大きいというようなところは確かにその通りだと思っている。教育委員会としては小学校と中学校の9年間の部分について関わっていくところとなるので、その学びについてはしっかりとさせていただきたいと思っている。その上で、その先を見通せるよう、子どもたちの力をつけていきたいと思っており、その先の自分の人生設定についてもしっかりと考えられるようにキャリア教育にも取り組んでいきたいと考えている。

○東京都の私立で学校名が幼稚園から大学まで同じというのが昔からあるので、そのことのギャップというのはどうなのかなと思う。周りの友達もみんな一緒

というのもあると思うが、ギャップについてどう捉えればいいのかは難しいと思う。

⇒確かに、幼稚園から大学まで一緒にというようなところもあるが、そういった所でもおそらく発達段階に合わせて小さなステップというものを作っているのではないかなと思う。また、大学まで繋がるような所だと、途中、試験などで子どもたちが入れ替わったりなどの部分もあり、ギャップというものを感じる場面もあると思う。

先生たちが小さいうちから見ていく中で、子どもたちの特性をしっかりと把握されているところもある。つまづかないようにすることばかりがいいことではないとは思っている。成長に合わせたステップも準備する必要があると思うので、発達段階に応じたステップを設けて、子どもたちが、より成長できるような形で進めていきたい。